

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 1月 31日

事業所名 子どもの広場高畑

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	1	物を最小限にし、活動スペースを広く利用できるように	学習スペースと遊びスペースを分けて活動している
	2	職員の配置数は適切である	3		子ども達全体を見渡せるよう配置している	職員間で目標を共有し、協力していくよう改善する
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		3		事業所がビルの2階(エレベーター無し)にある為、自力で階段の昇り降りが困難な利用者はいない。今後、身体障がいがある児童を受け入れていく為に補助につく職員を確保するなど検討していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3		半年に1回目標を定め、目標達成に努力している	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3			アンケートの回答はあるが、なかなか言葉で意見が得られない。紙面ではなくスマートフォンなどで回答できるようにすると手間もかからないのではないかと、検討していく必要がある。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1	多機能事業所の職員から意見やアドバイスを受け、業務改善につなげている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3		社内のオンラインセミナーに参加し、業務に役立ててい	基幹や社会福祉協会の研修に積極的に参加していくようにする
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3		相談支援や基幹と情報共有し、より情報を集め計画を作成している	定期的にあセスメントを行い保護者のニーズを確認していくようにする
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3		月に数回会議を開き活動プログラムを立てています	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3		さまざまな方向から情報を集め意見を出し合って固定化しないように努めている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3		学習時間と目田時間を決め、行動の切り替えができるよう支援している	長期休暇中は曜日ごとに教室を開くなど平日では難しいことを取り入れていくようにする
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3		個人で取り組む製作やグループに分かれて行う製作を行っている	子ども会議を開き、制作内容や方法をみんなて話し合っ決めていくようにした
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		当日・前日の支援内容の報告をし、情報共有している	特に気づいたこと・注意すべきことは記録に記入するよう徹底する
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	2		送迎などがある為、終了後に打ち合わせをすることが難しい。情報共有することはメモに残し、次の日のミーティングで話し合う、
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		支援中は気づいたことをメモに残し、記録に記入できるようにしている	担当の児童を決めず、記録を記入することでそれぞれ個人の情報を把握できるようにしている
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3		相談支援を交えて情報交換し、計画を立てている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3			

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		なるべく複数の職員で対応し、それぞれの方向から見た状況を報告できるようにしていくことを検討	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3		月の終わりに来月の行事予定等、確認している 新規児童が入所したときは、学校に挨拶の連絡を入れいつでも情報共有できるようにしている。今後も継続していく。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	1	月1回ケース会議に参加し、情報共有すると共に連携が取れる体制をつくっている	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		3	保護者から就学前の様子を聞き、支援の参考にしている	小学1年生が入所する際には保育所と共有していく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		3		現在まで該当する利用者はいませんでした。今後そのような場合は情報提供していく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1		今後、研修に積極的に参加し連携が取れる体制を整えていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3	多機能事業所の為、就労継続支援B型と合同イベントを行っている	保護者から障がい告知されていない(隠している)子どももいる、また自分の障がいについて理解できない子どももいる為、交流するには保護者の理解が得られるよう働きかける必要がある。検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	1		今後さらに積極的に参加していく体制を作り、色々な方面で連携が取れるよう努める
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3		連絡帳を通じて情報共有している。状況に応じて電話連絡している。	ブログにイベント時の様子など掲載していることを保護者に知らせていく
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		3		まずは職員がペアレントトレーニングを行う為の研修を受けていく	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3		契約時はもちろん、初来所日や初請求時に再度説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3		相談内容を職員間で話し合い、より良い方向に向かうよう考え、助言している	希望者には相談会(保護者会)を開き、直接話す機会を設ける方向で検討する
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3		まずは親子で参加できるイベントなどを開催し、父母の顔合わせをする計画を立てる
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3		速やかに管理者に報告し、利用者宅に連絡または訪問している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3			ホームページや書面にて行事予定など発信しているが、日常の様子など書面で発信していくことを検討していく
	35	個人情報に十分注意している	3		書類は鍵付き書庫に保管している	職員間であれ、屋外で利用者の話などを控えるよう常に気を付けて行動することを心がける
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3		発言が難しい子どもにはメールや筆談など文章で意思疎通している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3		区民祭りなどに参加していきたいと考えています

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1	職員が目につく場所にマニュアルを掲示し、常に把握できるようにしている	年度始めにマニュアルを保護者に配布し、周知していくようにする
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3		避難以外にも、備えなど災害に関する知識を取り入れ、訓練を行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	1		虐待防止委員会を立ち上げ、定期的に確認、会議を行うと共に研修に参加していく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3		説明対応した職員が中心となり、他職員と会議をし対処法を共有している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	2		現在アレルギーのある子どもの利用はないが、今後利用がある場合には全職員が医師の指示書を確認し対応していく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3		事例を職員間で共有し、今後の対応や対策を細かく話合っている	